

病院で宿直中に急患26人を診たのに休息として扱われたという医師の「宿日直」の実態を9月に報道したところ、多くの医療関係者から反響メールが届きました。実際には働いているのに労働時間と

みなされず、働き方改革に逆行する「隠れ宿日直」が、多くの医療現場に存在することが明らかになってきました。取材に協力していただけた一部を紹介します。
(枝松佑樹、土肥修一、齋石俊章)

「隠れ宿日直」多くの医療関係者から反響メール

群馬県の男性医師が勤める総合病院は、労基署に宿日直許可を申請するは、「絶対に書かないようため、働き方の実態について院内調査をした。」
病院は職員らに、宿直中の業務内容を受けたりに労基署を申請するつもりなどなかった」と男性医師は訴える。
「病院は実働通りに労基署を申請するつもりなどなかった」と男
性医師は訴える。
病院は職員らに、宿直中の業務内容を受け入れを停止していた時だ
通常は一晩に急患を
病院幹部は、薬剤の処
みで新型コロナウイルス
のクラスターが発生し、
10日間ほど救急車の受け
入れを停止していた時だ
つた。「調査時期は、院
内に勤務する医師、宿直中の
手術対応が除外調査とされなか
つたのです。
「厚労省は宿日直許可
を出すことを前提に、形
だけの調査しかしていない
い。本当に『働き方改
革』をする気があるな
ど、調査のやり直しが不
可欠だ」



形式だけ調査 労基署へ申請

●群馬の総合病院 医師

「命を預かる業務をしていながら、労働時間として扱われるのはおかしい」
東海地方の総合病院の麻酔科に勤める50代の男性医師はしげる。
2019年に1度、20年には2度、宿直中に発生した緊急手術で麻酔を担当したという。
「おかしいな」と思つたが、このときはどちらかで手術室は予約されていた。
「厚労省は宿日直許可を出すことを前提に、形だけの調査しかしていない。本当に『働き方改革』をする気があるなど、調査のやり直しが不可欠だ」

「命を預かる業務をしていながら、労働時間として扱われるのはおかしい」
東海地方の総合病院の麻酔科に勤める50代の男性医師はしげる。

2019年に1度、20年には2度、宿直中に発生した緊急手術で麻酔を

担当した。

「おかしいな」と思つたが、このときはどちらか

で手術室は予約されていた。

「厚労省は宿日直許可を出すことを前提に、形

だけの調査しかしていない。

本当に『働き方改革』をする気があるなど、調査のやり直しが不可欠だ」

「時間外」届け出 換算されていなかつた

●東海の総合病院 麻酔科医

医師の「宿日直」とは
・夜間や土日、病院に待機し、入院患者を見回り、救急患者にも対応
・労基署が許可すれば、労働時間として算定する必要のない「軽一日直」について、特例

許可標準は

・少數の軽症患者への間診など「軽度または短時間の業務」に限る
・救急患者、出産などの対応はめったにない
・ベッドがあり、夜は十分に眠れる

実際ににはこんなケースも



宿直で多くの救急患者を診る。睡眠が2~3時間忙しい実務を反映しない申請も、労基署が許可

士曰、入院患者の急変や外来患者に対するため医師が待機する「宿直」に「一日直」があれば、夜間や外に限られる。だが、男性医師は、「業務は宿直中に緊急手術や緊急内視鏡など(許可が集まらない)処置を

どの通常業務をすれば、

病院に届け出て労働時間として扱つてもうよう

医師が定めている。

たゞ、男性医師は届け出がない。これには理由がある。男性医師の病院が宿直許可を申請したのは、来年4月から始まる「医師の働き方改革」によつて、連続勤務が28時間と制限され、次の始業まで最低時間は週5時間で休む「インターバル」が必要

一方、許可があれば、宿直は休息として扱われるため、連続勤務はそこまで途切れ、さらにインターネットも接続したことにより、手術の件数が減るなど、病院にとっては経営上の影響も大きい。

一方、許可があれば、「気力や集中力が万全ではない状態でも、手術を行なうことは可能だ。ただし、男性医師は、宿直

直では休息として扱われるため、連続勤務はそこで30~50代の働き盛りの外科医がやめていくと、みなさんの家庭が緊密に結びついていた時代が現状です」

男性医師は、「手術対応は宿直中に手術対応を続ける必要がありますが、一歩間違えれば、患者の命を危険にさらす業務で責任も大きい。根本的な解決には、勤務時間の適切な調整が求められます。勤務時間の短縮化によっては、手術の件数が減る可能性があるため、外科医がやめていくと、みなさんの家庭が緊密に結びついていた時代が現状です」

通常勤務に影響 集中力万全でないのに手術も

じています」と明かす。
ほんとうに休みなかつた。

許可がない場合、例えば午前3時から勤務し、

せざるを得なくなる可能

性があると考えている。

そうすれば、日中に予定していた手術ができない

くなり、患者に影響が及ぶ恐れもある。

男性医師は訴える。

「気力や集中力が万全ではない状態でも、手術を行なうことは可能だ。ただし、男性医師は、宿直

直では休息として扱われるため、連続勤務はそこで30~50代の働き盛りの外科医がやめていくと、みなさんの家庭が緊密に結びついていた時代が現状です」

男性医師は、「手術対応は宿直中に手術対応を続ける必要がありますが、一歩間違えれば、患者の命を危険にさらす業務で責任も大きい。根本的な解決には、勤務時間の短縮化によっては、手術の件数が減る可能性があるため、外科医がやめていくと、みなさんの家庭が緊密に結びついていた時代が現状です」